

事業所における自己評価結果

事業所名		児童通所支援BambleGYM恵庭				公表日 令和7年11月21日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	休憩スペースと体を動かすスペースを分けており、活動をする際は適切なスペースを確保できている。適切になるよう注意して人数を分けている。ホールと休憩室が広めに設定されている。	児童の体も大きくなり、休憩スペースはこれ以上の人数だと狭く感じる。現状を維持し、活動の制限がかからないよう工夫する。場所を取らないよう玩具の整理整頓をする。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	2	職員を多めに配置することで、一人一人に手厚い支援を提供している。無理のない程度で利用人数を決めている。	職員数は足りている。活動内容によって職員が偏らないよう全員が意識する。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	ホール、休憩室、相談室などわかりやすい構造になっている。絵カード等を使用し、視覚で分かりやすいように配慮している。	玄関先やホール内には段差がある。今のところ怪我もなく過ごしているが、低年齢や身体不自由な子が今後利用される場合、その状況に応じて検討が必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	日々の清掃に加え、1週間に一度の掃除の日を決め徹底している。ホールでは体を動かし、休憩室ではゆっくり過ごせる環境を提供している。	施設内はホコリや汚れが溜まりやすいため、日々の掃除に加え、定期的に清掃日を定めて日々の清掃で行き届かない箇所の清掃も行う。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	休憩室や個室が自由に使えるようになっている。集中して学習したい子やあまり大人数が得意ではない児童に対して、休憩室や相談室を使い、個別対応している。	ゆっくり休める場所がない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	2	気軽に話し合える場を設け、意見を出し合っている。日々の朝礼で振り返りや目標を話し合っている。	多くの職員から意見を聞き取り、別の観点からの意見を積極的に取り入れていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	避難訓練の実施報告や懇親会の開催など前年度の保護者評価を基に改善を行った。評価表の他、懇親会を開催し保護者の意向等聞く機会を設けた。	公式LINEやインスタグラムを活用し、日々の支援内容を把握してもらう。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	2	朝礼や会議等でそれぞれの意見を出し合っている。年に一度、個別面談を予定しているが、申し出があれば適宜対応している。	意見や回答がまとまらないこともあるが、他事業所や関係機関から情報を収集し、知識を高める必要がある。より一層の話し合いが必要。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	3		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	事業所内で定期的に研修を行っている。講習会等の情報発信を行っており、参加した方からの情報共有を事業所内で行っている。	引き続き様々な研修への参加の機会を設ける。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	考案してプログラム作成を行っている。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	0	日頃から家庭での様子を共有し、面談時に詳しく聞き取りを行っている。	今後も家庭や事業所での様子の共有が必要。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	会議には数名の職員が参加し、意見交換をしている。	専門職がいないため、支援内容によっては少々力足りない部分がある。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	3	いつでも閲覧できるようわかりやすくファイルに編纂している。全員が把握して支援に取り組めるよう、話し合いや振り返り等を行なっている。	一人一人の支援計画をしっかりと把握し、支援する必要がある。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	各種検査結果を共有していくだけのご家庭もあり、支援に活用している。児童一人ひとりとの時間を大切にし、インフォーマルな部分から変化等、意識して関わっている。	各種検査結果を保護者と職員で共有できていないこともありますため、できる限り検査結果を共有していただき、今後の支援に活かしたい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	話し合いの場を設けて設定し、わかりやすく、細かく記載している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	話し合いの場を設けて設定し、わかりやすく、細かく記載している。	周囲の協力を得て、安心安全に行う。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	子どもたちが楽しめるよう、体操は日々ローテーションで行っており、マンネリ化しないよう工夫を取り入れている。	市の情報やSNS等で近隣で開催されるイベント情報を収集し、子どもたちが楽しめる活動を提供する。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	個別活動では専門的な支援を行い、集団活動も混ぜた支援を行えるよう計画を作成している。特に低年齢の場合には職員が主となり、集団活動や個別活動を展開している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	朝礼で細かな打ち合わせを行ってチームで連携して行なっている。	朝から子どもがいる場合は、打合せが十分にできない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	3	翌日の朝礼で職員間で振り返りを行い反省や情報共有をしている。	朝から子どもがいる場合は全員での打合せや振り返りは難しいが、少人数でも行う時間を探せる休みの職員への引き継ぎがなっていない事があるため、職員会議等で振り返って話し合う必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	連絡帳や日報、業務日誌で記録をとっている。	業務日誌に記載のない子どももいる。会議等で全児童についての様子や変化を話し合いたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	適宜対応している。	

関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	児童発達支援管理責任者や支援員が参加している。	人員に余裕がある場合は、複数名で参加し違う視点からの意見を述べたい。 小学生以上の子ども達の担当者会議の機会が少ないため、必要に応じて関係機関に連絡し開催する。
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	状況に応じて連携を取り、それぞれの様子等を把握して支援にあたっている	学校との連携が取りにくい。 必要性を感じたら担当者会議等を開催し、積極的に連携をとるべき。
	26 併用利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか、また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	担当者会議の他、見学に行ったり、来所してもらったりして情報共有を行い、子どもの最善を図っている。	小学校に進学すると、共通理解の機会が少ない。学校との連携した支援に向けた研修の機会を設定する。
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	3	※どちらでもない1名	子どもの実態に応じ、より細かな情報共有を推進する必要がある。
	(28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るために、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパー・バイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	1	密に連携を取っている。	より連携が必要。
保護者への説明等	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	6	2	公園等の屋外活動や公共施設の利用を積極的に取り入れ、地域交流の場を提供している。	他の子どもとの関わりが苦手な子はなかなか入っていけないが、職員が介入し、遊びや関わりを提供する。
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	送迎の際にその日の様子や最近の関わりについてお伝えし、家庭での様子も確認している。 また、その際の保護者の反応等も共有しあっている。	なかなか保護者に会えない家庭もあるため公式LINEも活用して様子を伝えるが、配信数は少ないため増やしていく。
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	4	懇親会で話し合いの場を設けている。	保護者会等で研修会を開催したい。 家族支援の研修を今後多く取り入れていきたい。
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	契約時に説明している。	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	年2回の面談でアセスメントを行い、確認している他、日々の送迎時等に聞き取っている。	低年齢だと本人の意思を確認できないこともあるが、児童の様子をしっかり把握し、保護者の意思もしっかり聞き取る。
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0	わかりやすく記載し、必ず説明を行い同意していただいている。	支援計画内容をしっかり読み込んでいる親は少ないように見えるため、面談等で話していきたい。
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	いつでも話す事ができるような雰囲気作りを行っている。その為、家庭の方から伝えてくれる事が多い。	求められたら対応できるが、求められない場合は踏み込んでの対応が難しい。しかし、今後は一步踏み込んだ対応も必要になってくると考えている。
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	1	年に1~2回懇親会を設けている。	きょうだい同士の交流はない。今後、繋がりが広がるような会を開催したい。 懇親会は開催しているが、父母の会等は無いため検討していく。
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	朝礼等で職員間で話し合い、児童発達支援管理責任者を中心に対応できている。	
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	公式LINEやInstagramを用いて活動等を発信している。	SNSを活用し、こまめに活動内容を発信していきたい。
非常時等の対応	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	徹底して行っている。	
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	絵カード等を利用している。 視覚で分かりやすいように配慮している。	
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	5	地域で行われているお祭りに参加したり、児童館での交流を行っている。	地域住民の招待は難しく感じる。
	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	ホームページにマニュアル等を載せる事により理解を深めている。 また、訓練を行っている事をSNSを用いて書く家庭に知らせている。	
	46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	必要回数行なっており、職員会議で改善点等について話し合っている。	
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8	0	事業所で与薬は基本行っていない。 家庭での服薬や既往歴は定期的に確認している。	
	48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1	強いアレルギーの子はいないが、食事の提供等で不安がある場合は適宜保護者に確認している。	
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0		
	50 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0		
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	なぜそのような状況になったのか、改善点はないかと迅速に対応している。	再発防止の話し合いをしっかりと行う。
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	研修を行い、職員間でも話し合える機会をもつている。	事例検討を取り入れた研修を行う。
	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	1		